

平成28年度

「確かな学力」研究推進校公開授業



平成29年1月20日（金）

高山村立高山小学校

も く じ

開催要項	1
参加者名簿	2
全体会会場図	3
全体会次第	4
授業研究会次第	5
高山小学校の取組	6

平成28年度「『確かな学力』研究推進校事業」に係る公開授業

- 1 趣 旨 学校全体で組織的・継続的に取り組んでいる学力向上対策の進め方や方策等について協議・情報交換を行うことにより、各学校の学力向上対策の推進に資する。
- 2 主 催 群馬県教育委員会 吾妻教育事務所 高山村教育委員会
- 3 日 時 平成29年1月20日(金) 13:40~16:40
受付 13:10~13:25
- 4 会 場 高山村立高山小学校
- 5 参加者 県内小・中学校教職員
- 6 日 程
- (1) 受付 13:10~13:25
- (2) 公開授業 13:40~14:25
移動・休憩 14:25~14:40
- (3) 全体会 14:40~15:30
移動・休憩 14:30~15:40
- (4) 授業研究会 15:40~16:25
- (5) 閉 会 16:40
- 7 公開授業 13:40~14:25

学 年	教 科	題材・単元名	指導者	場 所
第1学年	国 語	てがみをかこう	高橋 秋子	1年教室
第6学年	算 数	資料の特ちょうをしらべよう	岸 顕司	6年教室

- 8 全体会(プレイルーム) 14:40~15:30
- (1) 開会行事 あいさつ 高山村教育委員会教育長職務代理者 大谷 政代
吾妻教育事務所長 中村 正
高山村立高山小学校長 山口 廣
- (2) 研究発表 「高山小学校の取組」 高山小学校研修主任 関 幹彦
- (3) 質疑応答
- (4) 指導講評 吾妻教育事務所指導主事 市村 武文

- 9 授業研究会 15:40~16:40

学 年		場 所
第1学年	全体司会 吾妻教育事務所指導主事 小林 晃男 全体記録 高山村立高山小学校教諭 竹和由美子 ・授業説明 高山村立高山小学校教諭 高橋 秋子 ・質疑応答 ・協 議 ・指導講評 吾妻教育事務所指導主事 一場 民人	サポート2組 教室
第6学年	全体司会 吾妻教育事務所指導主事 市村 武文 全体記録 高山村立高山小学校教諭 大島 和沙 ・授業説明 高山村立高山小学校教諭 岸 顕司 ・質疑応答 ・協 議 ・指導講評 吾妻教育事務所指導主事 浅井 広之	プレイルーム

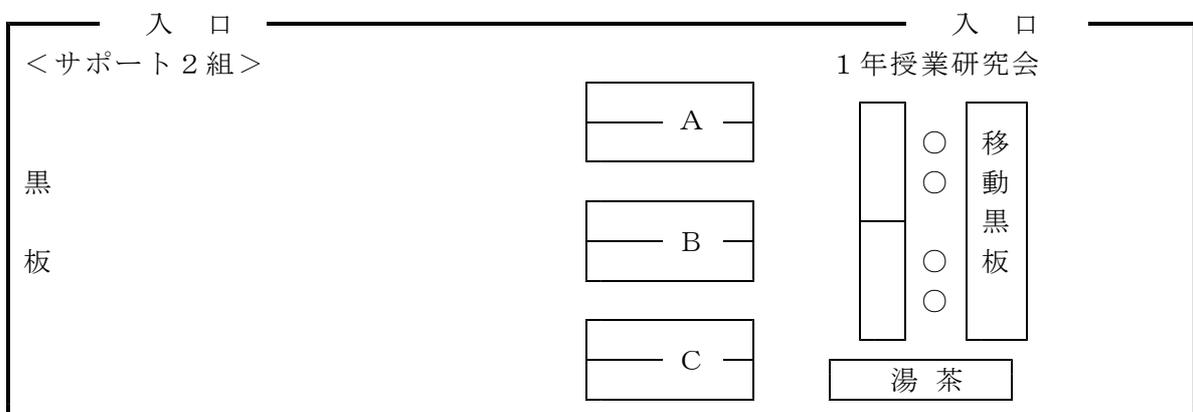
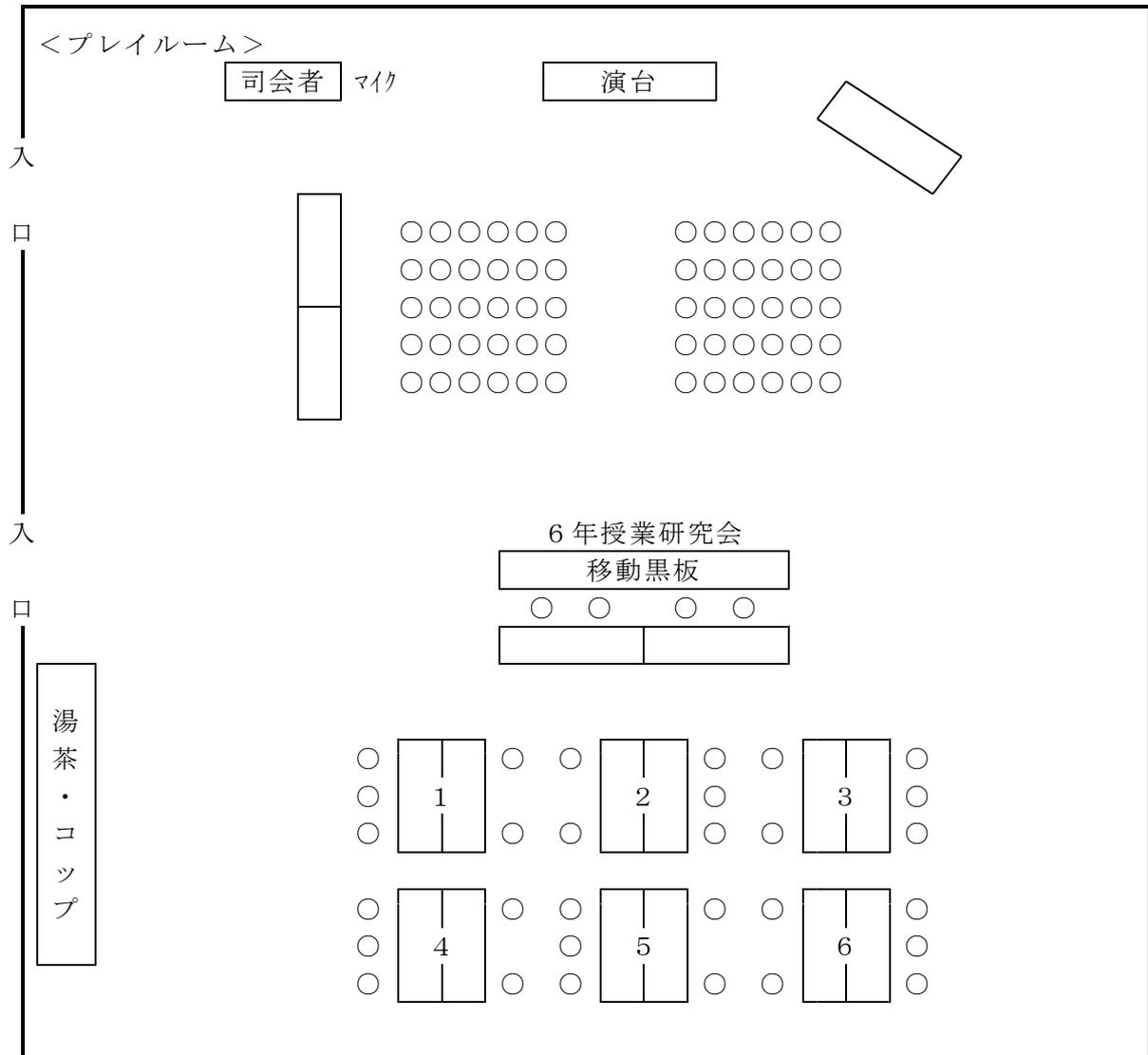
	市町村名	学校名	氏名	参観学年	グループ	進行・記録
中部	前橋市	滝窪小学校		1年国語	A	
利根・沼田	沼田市	沼田小学校		1年国語	B	
	沼田市	薄根小学校		1年国語	C	
	沼田市	川田小学校		1年国語	A	
	沼田市	多那小学校		1年国語	B	
	昭和村	東小学校		1年国語	C	
	みなかみ町	桃野小学校		1年国語	A	
	みなかみ町	月夜野北小学校		1年国語	B	
吾妻	長野原町	中央小学校		1年国語	C	
	長野原町	第一小学校		1年国語	A	
	長野原町	応桑小学校		1年国語	B	
	草津町	草津小学校		1年国語	C	
	東吾妻町	東小学校		1年国語	A	
東部	みどり市	笠懸東小学校		1年国語	B	
	館林市	館林市教育委員会学校教育課		1年国語・他	アドバイザー(C)	
中部	前橋市	東小学校		6年算数	アドバイザー(1)	
	前橋市	総社小学校		6年算数	2	
	前橋市	桃川小学校		6年算数	3	
	渋川市	渋川南小学校		6年算数	4	
	渋川市	古巻小学校		6年算数	5	
	渋川市	三原田小学校		6年算数	6	
西部	高崎市	佐野小学校		6年算数	1	
利根・沼田	沼田市	沼田東小学校		6年算数	2	
	沼田市	升形小学校		6年算数	3	
	沼田市	池田小学校		6年算数	4	
	沼田市	薄根小学校		6年算数	5	
	沼田市	沼田北小学校		6年算数	6	
	沼田市	白沢小学校		6年算数	1	
	川場村	川場小学校		6年算数	2	
	川場村	川場小学校		6年算数	3	
	みなかみ町	古馬牧小学校		6年算数	4	
	みなかみ町	水上小学校		6年算数	5	
	みなかみ町	新治小学校		6年算数	6	
みなかみ町	月夜野北小学校		6年算数	アドバイザー(2)		
吾妻	中之条町	中之条小学校		6年算数	1	
	中之条町	六合小学校		6年算数	3	
	嬭恋村	西部小学校		6年算数	4	
	東吾妻町	原町小学校		6年算数	5	
	東吾妻町	太田小学校		6年算数	6	
	東吾妻町	坂上小学校		6年算数	1	
	長野原町	西中学校		6年算数	2	
	嬭恋村	嬭恋中学校		6年算数	アドバイザー(3)	
	草津町	草津中学校		6年算数	4	
	高山村	高山中学校		6年算数	5	

<全体会・授業研究会 会場図>

※全体会は、プレイルーム

※6年授業研究会は、1階プレイルーム

1年授業研究会は、1階サポート2組教室（1年教室隣）



授 業 研 究 会 次 第

- | | |
|----------|-------------------|
| 1 授業説明 | 15 : 40 ~ 15 : 45 |
| 2 質疑応答 | 15 : 45 ~ 16 : 15 |
| 3 協 議 | |
| 4 協議内容発表 | 15 : 15 ~ 16 : 25 |
| 5 指導講評 | 16 : 25 ~ 16 : 40 |

研究主題 自分の思いや考えをもち、豊かに学び合う児童の育成

— 児童の実態に即した「めあて 学び合い ふりかえり」の授業づくりを通して —

高山村立高山小学校

I 主題設定の理由

本校は、群馬県教育委員会より平成26年度から3年間の「確かな学力」研究推進校の指定を受け、「知識・技能を活用し課題解決を図る力」を育成するための組織的・継続的な方策や、各教科等の指導の手立てに関する研究を行ってきた。指定3年目を迎え、「知識・技能を活用し課題解決を図る力」育成のための方策を充実させ、児童の学力向上に役立てるよう研究を重ねているところである。(全体の取組は資料1 学力向上計画参照)

平成27年度の全国学力・学習状況調査の結果、算数の基本的内容のA問題の正答数が高いのに、思考力や表現力を問うB問題の正答数が低い児童が多い実態が見られた。このことから基礎的・基本的な知識や技能が身に付いていると考えられる児童でも、それを活用する力が十分身に付いていないことが考えられ、「基礎的・基本的な知識・技能を活用し課題解決を図る力」の育成は、本校においても大きな課題であると考えた。

本校では、4年前より「自分の思いや考えをもち、豊かに学び合う児童の育成」を追究するために「学び合い」を取り入れてきた。児童が自ら学習課題を追究し、他者と協働的に学び合いながら共に学ぶ喜びや達成感を味わわせる学習スタイルへの改善を進めた結果、児童が分からないことに萎縮せず安心して学べる様子が見られるようになった。

これらの点を踏まえ、それまでの学習の経験から得た知識・技能（既習事項）を活用して学習課題を追究し解決させる授業を行い、本時の学習で学んだ新たな知識・技能を授業の中で着実に身に付けさせ、次の授業につなげていくことで、「基礎的・基本的な知識・技能を活用し課題解決を図る力」の育成を図りたいと考えた。「基礎的・基本的な知識・技能を活用し課題解決を図る力」の育成においては、既習事項の確認だけでなく、知識・技能の定着状況や特性、意欲・関心の傾向などの児童の実態もとらえ、授業づくりに生かすことが大切であると考える。授業の学習過程における児童の反応を教師が見取ることでPDCAサイクルを確立した授業改善にもつながると考える。

そこで本校では、児童の実態に即した「めあて 学び合い ふりかえり」を意識した授業づくりを実践することにした。この実践によって、児童一人一人が学び合う楽しさや喜びを味わい豊かに学び合うことができ、その学びが確かな学力につながると考え本主題を設定した。

<資料1>

知識・技能を活用し課題解決を図る力の育成		
学力向上委員会 (校長、教頭、教務主任、研修主任、学力向上CO、低高ブロック代表)		
指導体制の工夫・改善	教育課程の充実・改善	教員の指導力の向上
<ul style="list-style-type: none"> ○きめ細かな指導の効果的な実施 <ul style="list-style-type: none"> ・教科指導 ・習熟度別少数指導 ・IT指導の工夫 ○外国語活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・英語専科教師（高山中学校との連携）の活用（担任、ALTとの協力） ○パワーアップ（学力向上の時間） <ul style="list-style-type: none"> ・弱点強化・アシストシートの利用 ・評価問題集の活用 ○学習規律の共通理解と徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・「高山小1よりの1日」に基づく同一歩調の指導 ・生徒指導会議での課題の共有、解決 ○発達段階に応じた指導法の共通理解 <ul style="list-style-type: none"> ・「たかやま学び生活のやくそく」（12年間を見通した発達段階に応じた指導）の実践 ・発達段階に応じた学習習慣形成、学習規律の共通理解と実践 	<ul style="list-style-type: none"> ○考え、表現させる授業の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の確認をしっかり ・課題追究での学び合い ・ふりかえり（個に返す）の重視 ・知識技能を次時につなげる ①「めあて」 <ul style="list-style-type: none"> ・学習の筋道とゴールを見通すことができる既習事項の確認・めあての提示の工夫改善 ②「学び合い」 <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を活用し主体的に考え表現し、協働的に課題を追究し新たな知識・技能を身につける学習形態、指導体制、発問、問わり方の工夫改善を進める ③「ふりかえり」 <ul style="list-style-type: none"> ・本時で学習した知識・技能を着実に定着させる手立ての工夫 ・時間を十分確保する。(10分) ・評価問題（全員の理解確認） ・活用問題・説明する問題・日常生活とつなげる問題 （活用する力を高める評価問題集）などの活用 ○学力調査を活用した本校の実態分析と組織的な取組 <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査、CRT等の結果分析と活用 ○小中連携の一環の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・学びの基たかやま学園（高山村幼稚園小中一貫教育）の推進 ○校同連携による指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・相互授業参観と情報交換 ・合同授業（体系的な学習活動） 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・一人授業公開の実施 ・授業研究会の工夫（視点の明確化） ・基本の授業展開の共通理解と共通実践 ・国語、社会、算数、理科の基本デザインの変更 ・単元構想シート・授業構想メモの活用 ○管理職等の日常的な指導・助言 <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観、人事評価の実績評価の活用 ○校外研修への参加と成果の共有 <ul style="list-style-type: none"> ・校外研修の内容の伝達や資料の回覧
家庭・地域との連携		
<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の工夫・改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ダイアコンロールの推進（ちよびりノーレピデー、生活習慣調査） ・がんばり通関の実施（各学期に家庭学習充実通関を設定・高山中学校と連携して実施） ○地域ボランティアの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの実施（月2回） ・社会教育主事の活用（ボランティアコーディネーターや見学施設などとの選出と調整） 		
校内研修		
<p>【研究主題】 自分の思いや考えをもち、豊かに学び合う児童の育成 — 児童の実態に即した「めあて 学び合い ふりかえり」の授業づくりを通して —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はばたく群馬の指導プラン」に基づく授業研究の推進 ・既習事項の活用とふりかえりの充実による授業デザインの工夫改善 ・単元構想シート・授業構想メモの活用 		

II 研究の概要

1 研究推進の基本的な考え方

(1) 「自分の思いや考えをもつ」とは

学習課題に対し、児童が既習事項をもとに自分の解き方や答えなどの考えや感想をもつことである。さらに、「学び合い」や「ふりかえり」の過程で友達の思いや考えに接することで、自分の考えを変容させることや、考えや感想がもてなかった児童が自分の考えや感想をもつことも「自分の思いや考えをもつ」ととらえる。

(2) 「豊かに学び合う」とは

学習課題に対する多様な思いや考えを友達と伝え合い、違いや共通点に気付いてさらに考える事で学びは深まっていく。児童から多様な考えを引き出すためには、他者の考えを受け入れ、よさを見つけようとする雰囲気が必要である。相手の考えのよさを見つけようと努め、互いの違いと共通点を感じ取り、時には自分の考えにとどまらず、自らの考えを変容させたり、発展させたりする姿を「豊かに学び合う」姿と考える。考えがもてない児童も、分からないときには「分からない」と言え、自分の考えをもっている児童は相手が分かるまで自分の考えを説明しようとするような、温かな人間関係の中で、すべての児童が学習に主体的に参加する姿を目指している。

(3) 「児童の実態に即した めあて 学び合い ふりかえり の授業づくり」とは

学習活動に当たって、児童の既習事項を確認することはもちろんだが、その学級ならではの知識・技能の定着状況や特性、どんなことなら関心がもてるのかといった意欲・関心の傾向などの実態をとらえ、授業づくりに生かせるようにする。

また、授業における学習過程を児童にも理解しやすいよう次のようにした。

- ・課題把握では、既習事項とのつながりをもとにめあてを設定する。(学習過程「めあて」)
- ・課題追究では、既習事項を活用して課題を追究し解決する。学び合いを生かした学習活動を取り入れる。(学習過程「学び合い」)
- ・学習のまとめでは、分かったことのふりかえりや学んだことのよさを実感する場面を充実させ新たな知識・技能が着実に身に付くようにする。(学習過程「ふりかえり」)

2 研究のねらい

児童の実態に即した「めあて 学び合い ふりかえり」の授業づくりの実践を通して、確かな学力につながるための学びを明らかにし、豊かに学び合う児童の育成を目指す。

3 研究の内容と方法

○研究のねらいを達成するための授業デザインの構築

○既習事項と関連付けた「めあて 学び合い ふりかえり」の工夫

(1) 単元構想シートの作成 (資料 2) 単元の初めに単元構想シートで一単元の見通しを立て、授業構想の土台とする。

単元のねらい、単元の学習の基礎となる既習事項、単元の学習を通じて伸ばしたい資質能力、めざす児童の意識や姿、単位時間ごとの大まかな計画を作成する。

作成にあたり既習事項の定着状況、児童の特性や興味関心を把握することで、児童の実態に

資料 2		単元構想シート	
2年	教科:算数	単元名:形を調べよう	時期:2学期(9月~10月)
ねらい	○平面図形に親しみ、図形についての感覚を豊かにするとともに、三角形、四角形などの構成要素をとらえ、それらの意味や性質を理解する。		
既習事項	第1学年:「かたちづくり」 ・平面図形の構成、分解 ・三角形・四角形の素地 『さんかく』『しかく』などと日常の言葉を用いて、形をとらえてきた。		
伸ばしたい資質能力	○身の回りにあるものの形の中から、三角形や四角形、長方形や正方形などを見つけようとする力。 ○辺や頂点などの構成要素に着目して、三角形や四角形、長方形や正方形などの特徴を見いだす力。 ○紙を折って直角を作ったり、長方形や正方形などを作図したりする力。 ○三角形や四角形、直角、長方形、正方形、直角三角形の意味や性質を理解する。		
目指す児童の意識・態度	・パズルを用いた形作りを通して、『辺』『頂点』を意識していく。 ・形作りから、仲間分けをし、『三角形』『四角形』『直角三角形』『正方形』『長方形』を順に知り、定義する。操作活動をし、特徴や性質を知る。 ・直角を実際に自分でつくり、身近にある直角を探し見つける活動をする。 ・方眼紙に『直角三角形』『長方形』『正方形』をそれぞれの形の定義や性質を基に作図する活動をし、理解を深める。		
単位時間ごとの計画 (およその流れ)			
1 2 3	○パズルを使いいろいろな形を作る。 ○三角形、四角形の意味や性質を理解する。 ○三角形、四角形を弁別する。		
4 5 6 7	○直角の意味を知り、身の回りから直角を見つける。 ○長方形の意味や性質を理解する。 ○正方形の意味や性質を理解する。 ○直角三角形の意味や性質を理解する。方眼紙に作図する。		
8 9	○学習内容の習熟 ○発展問題		
事後考察 (良かった点、改善点) ・パズル、作図、などの学習活動は意欲的に取り組めた。初めての用語が多く、それらの定義や性質を印象付けるように動作化を用いた。楽しい活動が多いが、確実に定着することが難しい。定着させた児童は、用語の意味や性質を自ら見いだしていた。一人では見い出せなくても、ペア学習や、全体学習で満足感を味わえるようにしていきたい。			

応じた対応の仕方を特に意識し、学級の実態に合った授業デザインを目指す。

事後考察として授業後のテストなどからみた改善点なども記入し、資料として蓄積することで、次年度以降の指導にも生かし授業改善の継続を図れるようにした。

(2) 授業構想メモの作成

単元構想シートの作成で全体の構想ができたら、授業構想メモを作成し、1時間ごとの授業デザインを構想する。

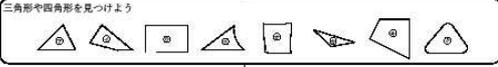
本時のねらい、本時の学習のもととなる前時までに学習した知識・技能の既習事項、本時のめあて、主な児童の活動と指導の留意点によって授業の展開を記入する。既習事項をもとにして、何をめあてとして、どのように学び、どんな方法でふりかえるのか、「めあて学び合い ふりかえり」の一連の流れを意識して記入できるようにした。めあては児童に分かりやすい言葉を用いると共に、「めあて」と「ふりかえり」がきちんと対応しているかなど、授業で大切にしたいことが見通せるようにした。

平成27年度より、単元構想シート、授業構想メモをもとに一人一授業公開を行った。本時のねらいと本時の活動で必要と思われる既習事項をはっきりさせ、「めあて」「学び合い」「ふりかえり」の時間配分を計画して、「知識・技能を活用し課題解決を図る力」の育成を目指した授業改善をしてきた。最後に事後考察を設け、次年度以降継続して授業改善に役立つようにした。複数学級の学年(2年生)では、先行して本時の授業を実施した学級の授業構想メモをもとに、見えてきた課題を出し改善して授業を実施することができた。

(3) 高山小授業基本デザイン(資料4-①~④)

すべての教師が、基本的な授業の流れや大切にすべきことをきちんと押さえて授業を構想できることは、児童の学力を保障する上で大切なことである。学年が変わり教科担当が変わっても、同じような授業を受けられることは児童が安心して学習に取り組めることにもつながる。

そこで、授業のねらいの立て方、既習事項の確かめ方、「めあて 学び合い ふりかえり」を基本とした授業デザインで、大切にしたいことや留意点をまとめた高山小学校授業基本デザインを作成した。本デザインを基本として1単位時間の授業を構想する。作成は教科主任が担当し、それぞれの専門性を生

授業構想メモ	
2年 教科:算数 単元名:形をしらべよう(3/9) 日時:10月 6日(木) 2校時	
ねらい 三角形や四角形の定義を根拠として弁別する理由を説明することができる。	
必要な既習事項 ・辺や頂点に注目しての形の仲間分け ・三角形と四角形の定義	
学習課題(めあて) 三角形や四角形になるわけを考えよう。	
主な児童の活動	指導の留意点
1 既習事項の確認 ○『三角形』『四角形』の定義を読み、前時の学習を振り返り、確認する。 2 めあての理解 三角形や四角形になるわけを考えよう。	○『三角形』『四角形』の定義と性質を提示する。 ●三角形…黄色 四角形…青
3 課題 ○課題を把握する。 三角形や四角形を見つけよう	
	
○ワークシートに三角形はオレンジ、四角形は青、どちらでもない形は鉛筆で印をつける。 ○ペア学習をする。 三角形、四角形、どちらでもない理由を考える。 ○発表の準備をする。 ○発表する。 ○代表の児童が動作化をする。 「直線」「囲む」を動作化する。 4 ふりかえりをする。 ○格子点を結んで三角形や四角形を作図する。 ○正解したら、ノートに自分で考えた三角形や四角形を作図する。 ○本時のまとめをする。	○ワークシートを配布する。 ●前時からの色分けでワークシートに記入し、形分けができるようにする。 ○定義と性質を意識させて理由が書けるようになる。また、どちらにもあてはまらないものがあることに気づかせる。 ○児童の考えを板書する。 ○全員ですべての図形について判定する理由や根拠を明確にする。 ○キーワードとなる2つの用語を印象づける。 ○1学期に学習した直線の引き方を確認する。 点と点をのさしをあわせて引くようにする。 ○次時への意欲をもたせる。 ○次時の予告をして学習意欲を高める。
事後考察(良かった点、改善点) ・ペア学習は効果があった。色分けしていたことで、ペア学習の時、考えの相違が見た目で分かり意見交換がスムーズだった。ふりかえりの時間を確保できなかった。学習のめあてをより明確し、学習活動を精選することが必要だった。ふりかえり活動を行うことで学習内容を定着させたい。	

〈資料4-③〉高山小学校 授業基本デザイン【算数】

授業の過程・内容	
めあて(課題把握)	
5分	①既習事項の確認 ○前時までの学習内容と比較して、本時の学習する価値を明らかにする ○追究の見通し、解決の見通しをもつことができるための知識・技能・考え方 ②めあてをつくる(毎時間黒板に提示しよう) ○学ぶ必然性や必要感をもてるめあて ○まとめの場面での児童の姿を予想し、どのような力をつけるかの視点から決定(整合性) ○思考を促すキーワードを入れる等の工夫 ③問題を提示する
30分	学び合い(課題追究) ※既習の知識・技能を活用することで課題解決ができることを意識させる。 ④課題を追究する(個別) 一人一人の問題の解き方を考え、解く。 ⑤協働し課題を追究する(考えを発表し、比較・検討する) 小集団、全体など 学級の実態や学習内容に対する児童の理解の様子で学習形態を決定 解き方がわかる児童は、友達にわかるように説明する。 説明のよさ 解き方の筋道や解き方の根拠を明確にすることができる。 自分の考えの弱いところに気付ける。 わからないところがある児童は、どこがわからないか友達に聞いて解決する。 小集団学習→斉学習での発表(解き方を発表し、比較検討する)。
活用問題に10分確保する	ふりかえり(まとめ) ⑥学習のまとめ 言葉による「まとめ」はシンプルに(児童の言葉で)「めあて」との整合 ⑦活用問題に取り組む(自力解決) ○本時で学習した知識・技能を活用して課題解決に取り組む。 ○児童の理解度を考慮した課題解決の工夫をする。(理解度に応じた問題など) (例) 活用問題①は全員、②は理解度別に選択させ取り組ませる。 活用問題① 教科書の例題や、数値やものを少し変えた問題を出題 (教師が○付けて全員の理解度を評価し、個別指導に生かす) 活用問題② 理解度が低い児童には同様の問題を出題 理解度が高い児童には発展的な問題を出題 ○「活用する力を伸ばす算数資料集」の問題を活用したり、参考にしたしたり。 ○数量や図形の「豊かな感覚」の力をつけるため、日常生活と結びついた問題や、文章で解答する問題などを取り入れる。

かすとともに、『はばたく群馬の指導プラン』を参考にした。これを基本として授業構想メモを作成していく。国語・社会・算数・理科の授業基本デザインを作成した。

(4) 既習事項の確認

次の点に留意し授業の導入で既習事項の確認を行う。

- ・前時までに学習した学習内容のうち、本時の学習で活用するものを中心に復習する。
- ・児童の理解度などの実態を把握し、復習に生かす。
- ・既習事項は掲示や板書などで「めあて」「学び合い」の過程でも可視化しておき、学習課題の追究のとき、既習事項をもとに考えるよう意識しやすいようにする。

(5) 「めあて」の工夫

「めあて」の決定では、次の点に留意する。

- ・既習事項の復習を受け、前時までの学習とつながる新たな課題として提示することで、児童の本時の学習に対する意欲が高まるようにする。
- ・児童が今日の授業のゴールを理解し、意欲的・主体的に活動できるよう、学習のねらいを児童に分かりやすい言葉で示す。(児童の立場で表現)
- ・「ふりかえり」での学習のまとめや目指す児童の姿・様子との一貫性に気を付け、分かりやすい展開を心掛ける。

(6) 「学び合い」の工夫

課題追究が学び合いで活性化するよう次の点に留意する。

- ・全員が安心して表現し多様な考えが出せるよう、発言のよいところに着目し、認める雰囲気づくりに努める。「分からない」と安心して言える、分かるまで説明しようとする温かい人間関係づくりに努める。
- ・全員が話し合いに参加し、かかわり合うことができることを目的としたグループ学習・ペア学習など発達段階や学習内容に適した学習形態を取り入れる。
- ・児童と児童をつなぐ教師のつなぎ、もどしの言葉がけを心掛ける。
- ・児童に合った課題、内容の提示方法(ワークシート・ホワイトボード・タブレット PC など)

(7) 「ふりかえり」の工夫

「学び合い」で意欲的に課題解決に取り組んだ後、「ふりかえりの10分」を合い言葉にふりかえる時間を十分確保することで習得した知識・技能を活用する問題を解かせ、知識・技能の着実な定着を目指す。

- ・時間を十分(10分)確保する。
- ・学び合いを個に返し、自力で課題を解決する。
- ・学んだことを使ったら解けた、という実感をもたせる。
- ・理解度の差に応じた課題を用意する。すべての児童をチェックし理解度の低い児童は個別指導を行う。
- ・学んで分かったことをもう一度自分の言葉で説明してみる(書いてみる)。
- ・日常生活との関連のある課題を用意する。
- ・感想の発表や、本時で分かったことの確認を行い、考えをまとめたり発表したりして共有する時間を設ける。
- ・次時の学習に生かすための確認をする。

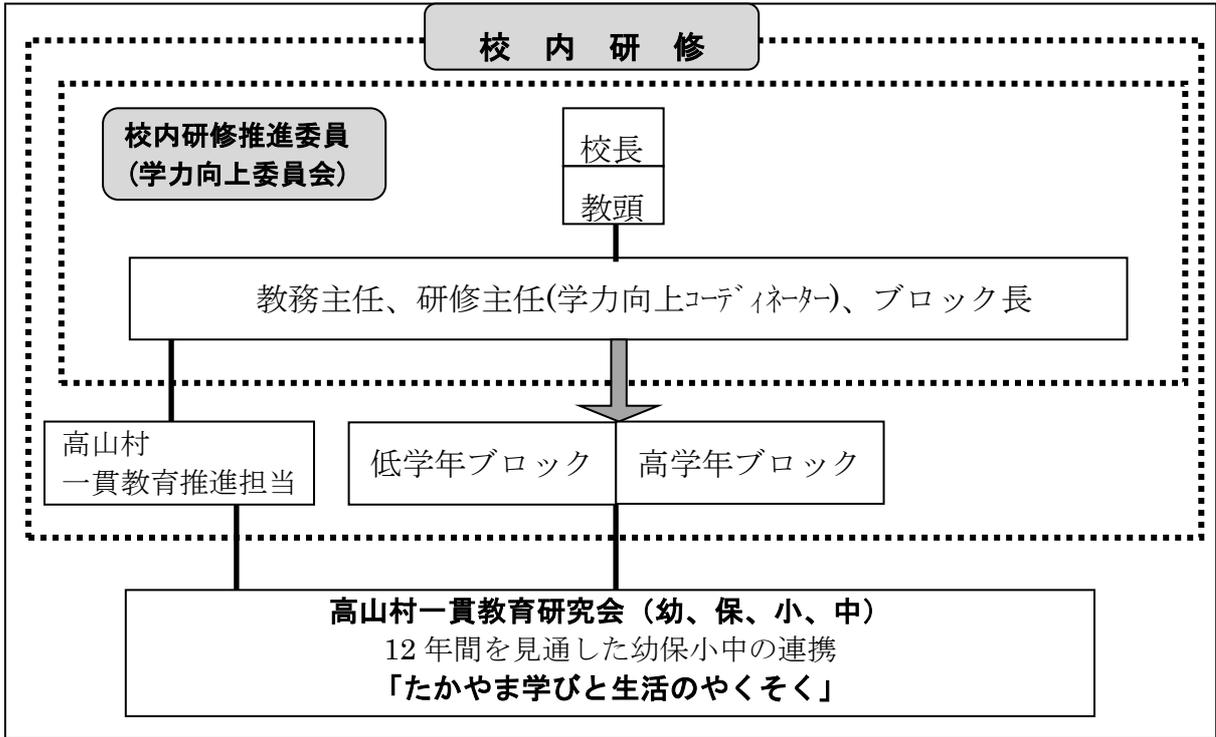
4 学力向上の素地となる学習規律、学習習慣の改善

高山村では、村内の幼保小中の園・学校を総称して「学びの里たかやま学園」として、高山村幼保小中一貫教育を推進している。「たかやま 学びと生活のやくそく」(資料5)は、幼保小中12年間の「学びの目標、指導内容、指導方法」を示した、一貫教育の中核と言えるものである。村内の園・学校は家庭や地域と協力し、「たかやま 学びと生活のやくそく」にもとづく発達段階に応じた指導を、連携して行っている。

本校では、学習規律・学習習慣の改善を目指し、平成27年度改訂した「高山小よい子の

1日」(資料6)をもとに、授業や学校生活の学習習慣・学習規律の指導を継続している。問題点は毎月行われる生徒指導委員会の場で検討することになっている。

5 研修組織



III 授業実践

1 低学年の実践(2年 算数)

(1) 単元名 「九九をつくろう かけ算(2)」

(2) 実態及び方針

○既習の学習内容

<第1学年において>

「10より大きい数」と「大きい数」で2つずつ、5つずつまとめて数えることや数の構成に基づく数の数え方と計算(数の意味と表し方)の領域では、以下の学習を行ってきた。

- ・いくつずつあるかを考え、たし算に表すこと。
- ・2とび、5とび、10とびで数を数えること。
- ・2とび、5とび、10とびで数を数えることのよさに気付いていること。
- ・ものの数え方を工夫し、説明すること。

<前単元 かけ算(1)において>

- ・ものの全体の個数を「1つ分の数」×「いくつ分」ととらえること。
- ・乗法の意味理解や用語「かけ算」を覚えること。
- ・乗法の場면을式に表すこと。
- ・同数累加による乗法の答えの求め方を理解すること。
- ・「倍」の意味の理解と乗法の適用を理解すること。
- ・5、2、3、4の段の九九の構成と暗唱すること。
- ・乗法を用いる場面をとらえ、言葉や式で説明すること。
- ・被乗数と乗数の意味を理解すること。

○単元にかかわる実態及び指導方針

<知識・技能 等>

- ・かけられる数、かける数の意味の理解について、不十分な傾向が見られる。
- ・全体的に立式については苦手傾向がある。
- ・既習のかけ算九九についての理解は達成されているが、言いづらい九九については、暗唱を徹底していく必要がある。
- ・未習の九九については、交換法則の活用で答えを求めていくことが概ねできている。
- ・本単元の九九の構成では、これまでの既習内容（①乗数が1増えると積は被乗数分だけ増える。②乗数と被乗数を入れ替えても積は変わらない。③6の段の九九は、2の段の答えと4の段の答え、3の段の答えと3の段の答えを合わせたものであることなど乗法の性質やきまり）を使って、同じように考えればよいことに気付かせていきたい。
- ・算数的活動として、ブロック、アレイ図、絵、言葉による表現、式による表現などを扱っていき、数感覚を豊かにしていきたい。また、日常生活とリンクした課題により、乗法が身近に感じられるようにしたい。
- ・文章の中の数値の意味を読み取ったり、吟味したりしながら問題を解決しようとする態度も身に付けられるように、分かっていることは何か、その分かっていることは「1つ分の数」か「いくつ分」なのかを明確にしながら取り組ませるようにしたい。
- ・計算など、繰り返し学習や個別指導を通して、確かな理解と技能を身に付けさせていきたい。

<思考力・表現力 等>

- ・根拠をもって考えていくことに苦手意識があり、感覚的な表現となっている傾向が強い。
- ・発表された考えの比較で、自分の考えに固執してしまい、よりよいものを追究していかうとする姿勢に弱い。
- ・いろいろな視点から自分なりに考えることのできる児童もいるので、うまく表現させていく必要がある。
- ・考えを発表する場面では、これまでの学習内容を根拠とする理由を付け加えた発表を促し、確かな理解に結びつけていきたい。また、他の考えを聞き、自分の考えと比較をしたり、他の考え方のよさを取り入れたりし、多面的に考える力を育てたい。
- ・自分の考えを書かせるなどして、考えを明確にした上で学習を進め「ふりかえり」に生かしていきたい。

(3)本時のねらい

乗法について成り立つ性質やきまり、既習の九九を用いて、6の段の九九の構成の仕方について考えることができる。

(4)展開

学 び の 活 動 予想される児童の反応	時 間	指導上の留意点および支援の工夫 ○教師の願い ◎児童への支援
1 既習事項の確認をする。 ・たすたす作せん ・ふえふえ作せん ・ぎゃく作せん ・分けっこ作せん ・4のだんの九九では、かける数が1ふえると、答えは4ふえる。	5分	◎「4の段を作ったときの作戦は？」と問いかけ思い出させる。 ◎かけ算のきまりにもふれ、本時の課題の解決に見通しがもてるようにする。

<p>○今日のめあてを確認する。 「めあて」</p> <p>今までに学しゅうしてきたことをつかって、6のだんの九九を作ろう。</p>	
<p>2 個別に課題を追究する</p> <p>○<自分の考え>をノートに書く。</p> <p>累加の考え<たすたす作せん></p> $6 \times 1 = 6$ $6 \times 2 = 6 + 6$ <p style="text-align: center;">.</p> <p style="text-align: center;">.</p> $6 \times 9 = 6 + 6 + 6 + 6 + 6 + 6 + 6 + 6 + 6 = 54$ <p>乗法のきまりを使った考え <ふえふえ作せん></p> $6 \times 1 = 6$ $6 \times 2 = 6 + 6 = 12$ $6 \times 3 = 6 \times 2 + 6 = 18$ <p>(前の答えに6をたす。)</p> <p style="text-align: center;">.</p> <p style="text-align: center;">.</p> $6 \times 9 = 54$ <p>分配法則<分けっこ作せん></p> $6 \times 1 = 2 \times 1 + 4 \times 1 = 6$ $6 \times 2 = 2 \times 2 + 4 \times 2 = 12$ <p style="text-align: center;">.</p> <p style="text-align: center;">.</p> $6 \times 9 = 2 \times 9 + 4 \times 9 = 54$ <p>上記で3の段と3の段を使う。</p> <p>かけられる数とかける数を入れ替える考え <ぎゃく作せん></p> $6 \times 1 = 1 \times 6 = 6$ $6 \times 2 = 2 \times 6 = 12$ <p style="text-align: center;">.</p> <p style="text-align: center;">.</p> $6 \times 5 = 5 \times 6 = 30$	<p>・めあてを板書し、本時の学習課題を明確にする。</p> <p>○既習事項をもとに6の段の九九の構成に主体的に取り組む。</p> <p>◎自力解決ができずつまずいている児童には、考える視点を明確にして気付かせるようにしたい。</p> <p>◎自力解決できない場合には、隣の児童に声をかけ、教わってもよいことを伝え、粘り強く取り組めるようにする。</p> <p>◎操作活動で、考えを確かめたり深めたりさせる。</p> <p>◎自分の考えを、みんなに分かりやすく説明する方法を考えさせる。</p> <p>◎すぐにできた児童には、他の方法も考えてみるように声をかける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇6の段の九九の構成を考えることができる。 【考】（観察）</p> </div>
<p>3 考えを発表し、全体で比較・検討する。 「学び合い」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>今までに学しゅうしたどんな考えをつかいましたか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「たすたす作せんで考えた。」 ・「ふえふえ作せんで考えた。」 ・「分けっこ作せんで2の段と4の段を使って考えた。」 ・「分けっこ作せんで3の段と3の段を使って考えた。」 ・「ぎゃく作せんでかける数とかけられる数を入れ替えて考えた」 	<p>○それぞれの考えのどこがよかったかを確認させることを通して、そのよさを認め合い、よりよい方法を探すようにさせる。</p> <p>◎発表の時は、聞き手が分かりやすいように、タブレットを使用し、何作戦かを初めに言うことを指示する。</p> <p>◎聞きは、自分の考えと同じかどうか考えながら聞くように指示する。</p> <p>◎発表した児童以外にも、同じ考えやよいと思えた考えについて説明させる。</p> <p>◎分かりやすいと判断した理由について説明させる。</p> <p>◎いろいろな方法が出ないときは、教師が紹介する。</p>

<p>4 学習のまとめをする。「ふりかえり」</p> <p>6のだんの九九を作るには、6ずつたしたり、今まででならった九九に分けてたしたり、かける数とかけられる数をはんたいにしたりするとできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6の段の九九を表に書き込む。 ・6の段を唱える。 ・活用問題に取り組む。 <p>①1はこ6こ入りのチーズが3はこあります。チーズはぜんぶで何こありますか。</p> <p>②6の段を使う問題作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時の予定を知る。 	10分	<p>◎まとめは児童の言葉でまとめられるようにする。</p> <p>◎個別指導により、つまづいている箇所への支援をする。また、早くに解決してしまった児童には、他の応用的な問題を与える。</p> <p>◎6の段の活用問題に取り組ませる。</p> <p>◇乗法の6の段の九九を課題解決に利用できる。 【知】（プリント）</p> <p>○次時は、6の段を覚える学習をすることを知らせる。</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(5) 考察

本時では、6の段の九九を既習の乗法に関する性質（乗数が1増えると積は被乗数だけ増えること）やきまり（被乗数と乗数を入れ替えても積は変わらないことなど）を用いることによって、児童が自ら九九を構成できるようにすることを大事に扱いたいと考え展開を構想した。

①「めあて」

既習事項の確認では、これまでの九九の構成で取り組んできたことを4の段の九九を中心にどんな作戦があったか振り返った。かけ算のきまりにもふれ、本時の課題の解決に見通しがもてるようにした。

本時のめあてを「今までに学しゅうしてきたことをつかって、6のだんの九九を作ろう。」と、言いながら板書し明確にした。課題が明確になると、児童一人一人が自分の考えをもって既習事項を基に6の段の九九の構成に主体的に取り組み始めた。既習事項を確認しながらすすめられるように学習してきたことを掲示しておくなど工夫した。また、自力解決の時間を十分確保し、全員がなんとか自力解決できたという思いがもてるようにした。自分の考えをもって次の学び合いに入れるように考えた。

②「学び合い」

「今までに学習したどんな考えを使いましたか。」と発問し、発表を促し、みんなで比較検討をした。意図的な発表のため、予めタブレットPCでノートを撮影し、電子黒板に写しながら児童が発表を行った。発表のときは、聞き手に分かりやすいように作戦名を言ったり電子黒板で確認したりしながら説明するようにした。友達の発表を聞くときには、自分の考えと同じかどうか注意点を与え聞くようにさせた。また、同じ考えで発表者以外の児童がやってみたところの感想を発表させるなど、複数で1つのやり方の説明をさせる工夫をした。児童の発表が作戦名だけだったので、もう少しじっくり検討できればよかったと反省した。なお、その際には、検討する視点、例えば、速くて簡単で便利なやり方はどの方法かなど検討する視点を明確にするとよかった。そこで、この課題を改善する試みをもう1クラスで実践してみた。そこでは、それぞれの考えを比較・検討する時間をたっぷりとする学び合いに取り組んでみた。まず、課題の自力解決に向けて児童は、意欲的に取り組み様々な方法で6の段の九九を構成した。学び合いの場面では、友達の考えをその児童になったつもりで発表させた。また、どの方法が便利だったかなどを考えさせたがあまり興味・関心がないようであった。今後、繰り返し比較・検討の場面を設けることによって、磨かれていくのではないかと感じた。発達段階を考えると学び方を学ぶ段階で今後につなげられればと考える。

③「ふりかえり」

まず、めあて（課題）を確認しその解決方法を児童の言葉で「6のだんの九九を作るには分けっこ作せん、ぎゃく作せん、ふえふえ作せんをつかえばできる。」とまとめた。そ

の後、「身の回りに6の段が使われている物があるか。」と尋ねた。1箱6個入りのアイスの箱やチーズの箱を提示したり、かぶと虫の足の数が6本であることを確認したりして生活の中にも6の段が使えることを取り上げると興味・関心が高まった様子であった。身近な物・具体物を示す工夫は、効果的であった。

次に、本時で学習した6の段の構成を九九表に入れてめあての確認をした。「できた。」という達成感を味わうことができた。そして、「ふりかえりのもんだい」と題したプリントで、本時で得た知識・技能を確かめる問題に取り組み、児童の理解度を評価した。「6の段をつかうもんだいをつくろう」では、正解できた児童は、15人中8人と約半数で、不正解だった児童は、1つ分の数を6と表せないことのミスだった。このことは、これまでの学習でも大事にしてきたことだが、児童にとって理解の難しいことだと言える。今後このことを意識しながら授業を構想していかなければと考えている。かけ算は便利だなあと実感できる授業を目指していきたい。

2 高学年部会の実践（4年 算数）

(1) 単元名 「わり算のしかたを考えよう」（6月6日実施）

(2) 実態及び指導方針

① 既習の学習内容や経験

<第3学年>

- ・「わり算」の単元において、「除法の意味と演算記号」「九九を1回適用する除法計算(余りなし)」について学習してきた。
- ・「あまりのあるわり算」の単元において、「九九を1回適用する除法計算(余りあり)」「余りと除数の大きさの関係」「答えの確かめ方」について学習してきた。
- ・「大きい数のわり算」の単元において、「何十÷1位数の計算」「商が2位数になる簡単な除法計算」について学習してきた。

② 実態及び方針

<知識・技能 等>

- ・「あまりのないわり算」では、1位数÷1位数（九九を1回活用するわり算）ではほとんどの児童が理解しているが、2位数÷1位数（九九を1回活用するわり算）については、数名苦手としている児童がいる。
- ・「あまりのあるわり算」についても、2位数÷1位数（九九を1回活用するわり算）について、ほとんどの児童が理解している。
- ・「わり算のしかたを考えよう」では、筆算の仕方を位取りに注意させながら技能を習得できるように、ノート指導を徹底させるようにする。
- ・倍の計算を学習する過程では、比較量、基準量の用語と文章問題から読み取れる数値を一致できるように指導を徹底させる。

<数学的な考え方>

- ・「あまりのあるわり算」の文章問題では、多くの児童が立式をすることができるが、計算する過程において、「わる数」と「余り」の数値の比較から答えの確かめができず、間違った解答をする児童が数名いる。
- ・「わり算の仕方を考えよう」では、筆算方法を学ぶ前の計算方法の段階において、多様な考えをイメージしやすいように、具体物を活用した操作を重視していきたい。
- ・『はばたく群馬の指導プラン』を意識した授業構想を行うとともに、既習事項や授業中に得られた知識を活用して課題解決をする。

(3) 本時のねらい

3位数÷1位数＝2位数（首位に商がたたない）の計算を考える活動を通して、商の見通しを立て、筆算の仕方を理解し、その計算ができる。

(4)展開

学 び の 活 動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点および支援の工夫 ○教師の願い ○児童への支援
<p>1 既習事項の確認</p> <p>○これまでに学習した文章題の3位数÷1位数の計算方法を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">732 まいの色紙を、4人で同じずつ分けます。1人分は何まいになりますか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ $732 \div 4$ をすれば求めることができる。 ・ 筆算をすればいい。 ・ 答えは1人183まいになる。 <p>○被除数の732を256に変えたときどのような答えになるのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 百の位に数字が立たない。 ・ どうやって計算すれば良いのだろう。 <p>2 「めあて」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">新しい3けたのひっ算方法を覚えよう</div>	7分	<p>◎既習事項を全員で確認できるように、フラッシュカードを用いて提示する。</p> <p>○既習事項なので、立式から、筆算、答えまでを出させていく。</p> <p>○被除数の数値が変わったとき、計算の仕方に変化が見られるかを確認させ、本時のめあてへとつなげる。</p> <p>○被除数の数値が変わったことにより、既習事項と関連させたときに、求め方に変化が生じることに気付く。</p> <p>◎本時のめあて、課題を理解させるために、ノートに写させ、全体で読みながら確認をさせる。</p>
<p>3 「学び合い」</p> <p>○$256 \div 4$ の筆算方法についてグループで考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 百の位に数字が立たないから、どうやって計算すればいいのだろう。 ・ 十の位から数字を立てて計算すればよいのだな。 ・ 検算方法は、わる数×商+余りで求められるんだったな。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 100の束2まいでは、4人に分けることができない。 ・ 100の束を10の束に崩せばいいのかな。 ・ 筆算で求めることができないのかな。 <p>○グループで考えた計算方法を発表し、全体で確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 筆算で、百の位には数字が立たないので十の位に数字を立てて、その後筆算していくと答えは64になります。 ・ 100の束を崩して10の束にして、10の束を崩して1の束にして、4人に同じ数ずつ分けると1人分は64枚になります。 ・ 検算方法は、わる数×商+余りなので $4 \times 64 + 0$ で答えは256になります。 	28分	<p>○3位数÷1位数=2位数（首位に商が立たない）の筆算方法を考えさせる。</p> <p>◎グループで話し合いながら、筆算方法について考えさせるために、ワークシートを配布し、筆算や考え方が記入できるようにする。</p> <p>◎筆算方法が考えられたグループには、検算をしてみるように促す。</p> <p>◎円滑にグループ学習が行えるようにするために、考えがまとまらないグループは児童が視覚的にとらえて考えることができるようにするために、100の束、10の束、1の束の色紙を配布し、具体物进行操作しながら確認できるようにさせる。</p> <p>◎グループで発表がしやすいように、筆算が書かれた模造紙を用意しておく。</p> <p>◎筆算の答えが合っているかを確認するために、100の束、10の束、1の束が書かれたカードを使って発表させ、視覚的にもとらえやすいようにする。</p> <p>◎検算方法で確認したグループにも発表させるようにする。</p>

<p>4 「ふりかえり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆算方法を確認する。 ・活用問題を解く。 ・練習問題に取り組む。 	<p>10分</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎児童が知識として筆算方法を振り返れるように筆算方法について簡潔にまとめるようにする。 ◎本時で学習した知識が定着したかを確認するために、練習問題を提示する。 ◎筆算ができるように、練習問題につまずいている児童に対しては、机間支援をしながら個別に指導する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>3位数÷1位数=2位数(首位に商が立たない)の筆算ができる。【技】(ノート)</p> </div>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(5) 考察

本単元では、2～3位数を1位数でわる除法計算について理解し、その計算が確実にできるようにするとともに、それを適切に用いる能力を伸ばすことが大きな目標である。生活の場面や文章問題から立式をし、筆算を用いて問題解決を図ることが、上記の目標を達成するために有効であると考えた。そのためには、どの位に商が立つかという見通しをもつために具体物を操作したり、文章問題中の必要事項に線を引かせながら立式したりすることが大切であると考えられる。本時の学習では、3位数÷1位数で百の位に商が立たない筆算方法の理解をねらいとしている。既習事項を活用しながら、グループで問題解決を図り、「ふりかえり」の場面で児童の実態に応じた筆算問題を提示することで、知識の定着を図れることを期待して、本時の展開を構想した。

① 「めあて」

児童の興味・関心を高めるために、既習事項の確認から行った。3位数÷1位数の計算において百の位から商が立つ筆算を全体で一つ一つ挙手をさせながら確認していくことで、本時の学習である十の位から商が立つ筆算についての見通しをもてるようにした。既習事項である筆算方法の「立てる」「かける」「ひく」「おろす」の順序を守りながら筆算していくということを改めて指導した。既習事項ということもあり、多くの児童の積極的な挙手が目立った。一人一人がテンポ良く答えを発表していた。

前時の既習事項を振り返ったことで、児童も学習内容を思い出すと共に、意欲付けにもつながり本時のめあてへとつなげることができた。また前時では筆算方法について学習してきているので、今回の文章問題も筆算で解くことができるのではないかという認識をもつことができた。

② 「学び合い1」

グループ学習では、 $256 \div 4$ の筆算を考えて、ワークシートにどのように筆算したかの説明も記入しながら話し合う場面を設けた。筆算方法が分からないグループには、人と数字が書かれたカードを配り、操作活動により答えが導き出せるように促した。

百の位に商が立たないことをすぐに理解し、多くのグループが十の位から商を立て始めていた。説明の記入の仕方が分からないというグループもあったが、「立てる」「かける」「ひく」「おろす」のキーワードを示すことで、その後はスムーズに話し合いを行うことができていた。また、筆算方法が分からないグループも、操作活動から答えを導き出そうとしていた。

多くのグループが話し合いの中で筆算を解くことができた。筆算を考える中で、百の位に商が立たない=百の位に0を書くという認識をもったグループもあったので、考え方としては正解だが、記入するときは0を書かないことを徹底させていく必要があることが分かった。また、筆算を間違えてしまったグループの中には、位取りがずれていたのが原因であったので、改めて意識させることが重要であることが分かった。

③ 「学び合い2」

グループで考えた筆算や検算、操作活動による答えの確認を全体で行った。操作活動や検算した板書と自分たちの筆算の答えを照らし合わせることで、改めて間違っていないかを確認していた。今回の筆算では、百の位に0を書かないということ、操作活動の板書により、視覚的にも十の位から数字を立てること、検算によって答えが合っていることを全体で確認することにより自分たちの筆算の答えが改めて正解かどうかを再確認することができた。今後の筆算においても確かめを意識させていくことが重要であると考えられる。

④ 「ふりかえり」

本時の学習で得られた知識が定着したかを確認するために、3位数÷1位数の筆算において、十の位から商が立つ練習問題を何問か提示した。練習問題を重ねて解くことで、知識の定着を図ることをねらいとした。

多くの児童が、本時の学習を生かし3位数÷1位数の筆算において、十の位から商を立てて筆算をしていた。また、「立てる」「かける」「ひく」「おろす」や位のずれがないかを確認しながら練習問題に取り組んでいた。何問か練習問題を提示することで、自分のペースで取り組むことができ、意欲付けにもつながった。中には、もっと位数の多い筆算に取り組みたいという意見も出てきた。ただ、まとめて終わらせるよりも筆算に慣れていくことで、知識の定着が図れていくことを実感することができた。そして、その積み重ねが確かな学力へとつながると感じた。

IV 成果と課題

検証に当たっては、教師が年間一人一授業を行い、その後の授業研究会において、既習事項が『「めあて 学び合い ふりかえり」』とどのように関連し、機能していたか、『「ふりかえり」』の学習活動が児童に知識・技能を着実に身に付けさせるために有効であったか、について検討を重ねてきた。また昨年度は学期に1回以上指導主事に訪問をお願いして、研究授業をすると共に、一人一人の教師が日頃抱えている課題について指導助言を受けた。その結果、次のような成果と課題が明らかになった。

1 成果

【教師の姿として】

- ・「めあて」では、既習事項と関連付けて本時でめざす児童の姿を想定し、児童の言葉で本時のねらいを表すよう毎時間意識した。
- ・「学び合い」では、既習事項を活用して本時の課題を解決できるよう意識し、児童がよりよい解決方法を比較検討したり、活発な交流をしたりするよう支援の工夫をすることができた。
- ・「ふりかえり」では、自力解決のための時間を十分確保するよう努め、児童が新たに学んだ知識や技能を活用する場面を充実させることができた。
- ・「ふりかえり」では、日常生活にかかわる問題の出題や成果の発表など、児童の興味・関心などの実態や教科の特性を生かし、振り返り方を工夫した。また、全員の理解度を確認し、個別指導を行うことができた。

【児童の姿として】

- ・「めあて」では毎時間めあてが明確に示されたことで、何を手掛かりに、何をするのがはっきりし、既習事項をもとに課題解決に向けて考えようとする意欲的な姿が見られた。
- ・「学び合い」では、既習事項をもとに課題を解決するために友達と協力して考えたり、自分の考えを友達や教師に積極的に伝えようとしたりする姿が見られた。
- ・「ふりかえり」の時間を充実させたことは、自力解決で問題が解けるまでじっくり取り組む姿勢づくりにつながった。
- ・「ふりかえり」で、全員の理解度を確認し、個別指導を行ったことで、学習したことを使って問題を解くことができたという充足感につながっていた。日常生活にかかわる問題

などを解く活動で、学習した知識・技能への有用感を感じ、日常生活に生かしてみようとする態度が見られた。

以上から、児童の実態に即した「めあて 学び合い ふりかえり」の授業づくりの実践は、確かな学力の向上につながり、豊かに学び合う児童の育成に役立ったと考える。

2 今後の課題

- ・児童の実態に基づき課題解決に対しての意欲付けにつながるようなめあての与え方や活用問題の内容をさらに工夫し、成果を蓄積していく必要がある。
- ・学び合いの素地となる安心して考えが出せる雰囲気作りを意識して、教育活動全般で児童の人間関係づくりを進める必要がある。
- ・単元全体を通して、身に付けさせたい力をどこでどのように身に付けさせるかを明確にし、じっくり考えを深めることに重きを置く授業や、知識・技能の確実な定着に重きを置く授業などを単元構想シートに位置付けていく。

知識・技能を活用し課題解決を図る力の育成

高山村立高山小学校

学力向上委員会

(校長、教頭、教務主任、研修主任、学力向上 CO、低高ブロック代表)

指導体制の工夫・改善	教育課程の充実・改善	教員の指導力の向上
<ul style="list-style-type: none"> ○きめ細かな指導の効果的な実施 <ul style="list-style-type: none"> ・教科担当制 ・習熟度別少人数指導 ・IT 指導の工夫 ○外国語活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・英語専科教諭（高山中学校との兼務）の活用（担任、ALT との協力） ○パワーアップ（学力向上の時間 金曜業間） <ul style="list-style-type: none"> ・弱点強化・アシストシートの利用 ・評価問題集の活用 ○学習規律の共通理解と徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・「高山小よい子の1日」に基づく同一步調の指導 ・生徒指導会議での課題の共有、解決 ○発達段階に応じた指導法の共通理解 <ul style="list-style-type: none"> ・「たかやま学びと生活のやくそく」（12年間を見通した発達段階に応じた指導）の実践 ・発達段階に応じた学習習慣形成、学習規律の共通理解と実践 	<ul style="list-style-type: none"> ○考え、表現させる授業の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の確認をしっかりと ・課題追究での学び合い ・ふりかえり（個に返す）の重視 ・知識技能を次時につなげる ① 「めあて」 <ul style="list-style-type: none"> 学習の筋道とゴールを見通すことができる既習事項の確認・めあての提示の工夫改善 ② 「学び合い」 <ul style="list-style-type: none"> 既習事項を活用し主体的に考え表現し、協働的に課題を追究し新たな知識・技能を身につける学習形態、指導体制、発問、かわり方の工夫改善を進める ③ 「ふりかえり」 <ul style="list-style-type: none"> 本時で学習した知識・技能を確実に定着させる手だての工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・時間を十分確保する。（10分） ・評価問題（全員の理解度確認） ・活用問題・説明する問題・日常生活とつなげる問題 （「活用する力を見取る評価問題集」などの活用） ○学力調査を活用した自校の実態分析と組織的な取組 <ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査、C R T 等の結果分析と活用 ○小中連携の一層の推進 <ul style="list-style-type: none"> 学びの里たかやま学園（高山村幼保小中一貫教育）の推進 ○学校間連携による指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・相互授業参観と情報交換 ・合同授業（体験的な学習活動） 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ・一人一授業公開の実施 ・授業研究会の工夫（視点の明確化） ・基本の授業展開の共通理解と共通実践 <ul style="list-style-type: none"> 国語、社会、算数、理科の基本デザインの改善 ・単元構想シート・授業構想メモの活用 ○管理職等の日常的な指導・助言 <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観、人事評価の業績評価の活用 ○校外研修への参加と成果の共有 <ul style="list-style-type: none"> ・校外研修の内容の伝達や資料の回覧
<h3>家庭・地域との連携</h3>		
<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の工夫・改善 <ul style="list-style-type: none"> メディアコントロールの推進（ちょっぴりノーテレビデー、生活習慣調査） がんばり週間の実施（各学期に家庭学習充実週間を設定・高山中学校と連携して実施） ○地域ボランティアの活用 <ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせの実施（月2回） 社会教育主事の活用（ボランティアティーチャーや見学施設などとの選出と調整） 		
		
<h3>校内研修</h3>		
<p>【研究主題】 自分の思いや考えをもち、豊かに学び合う児童の育成 ー児童の実態に即した「めあて 学び合い ふりかえり」の授業づくりを通してー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はばたく群馬の指導プラン」に基づく授業研究の推進 ・既習事項の活用とふりかえりの充実による授業デザインの工夫改善 ・単元構想シート・授業構想メモの活用 		

〈資料2〉

単元構想シート

2年 教科：算数

単元名：形を調べよう

時期：2学期（9月～10月）

ねらい	○平面図形に親しみ、図形についての感覚を豊かにするとともに、三角形、四角形などの構成要素をとらえ、それらの意味や性質を理解する。
既習事項	第1学年：「かたちづくり」 ・平面図形の構成、分解 ・三角形・四角形の素地 『さんかく』『しかく』などと日常の言葉を用いて、形をとらえてきた。
伸ばしたい資質能力	○身の回りにあるものの形の中から、三角形や四角形、長方形や正方形などを見付けようとする力。 ○辺や頂点などの構成要素に着目して、三角形や四角形、長方形や正方形などの特徴を見いだす力。 ○紙を折って直角を作ったり、長方形や正方形などを作図したりする力。 ○三角形や四角形、直角、長方形、正方形、直角三角形の意味や性質を理解する。
目指す児童の意識姿	・パズルを用いた形作りを通して、『辺』『頂点』を意識していく。 ・形作りから、仲間分けをし、『三角形』『四角形』『直角三角形』『正方形』『長方形』を順に知り、定義する。操作活動をし、特徴や性質を知る。 ・直角を実際に自分で作り、身近にある直角を探し見付ける活動をする。 ・方眼紙に『直角三角形』『長方形』『正方形』をそれぞれの形の定義や性質を基に作図する活動をし、理解を深める。
単位時間ごとの計画（およその流れ）	
1 ～ 3	○パズルを使いいろいろな形を作る。 ○三角形、四角形の意味や性質を理解する。 ○三角形、四角形を弁別する。
4 ～ 7	○直角の意味を知り、身の回りから直角を見付ける。 ○長方形の意味や性質を理解する。 ○正方形の意味や性質を理解する。 ○直角三角形の意味や性質を理解する。方眼紙に作図する。
8 ・ 9	○学習内容の習熟 ○発展問題
<p>事後考察（よかった点、改善点）</p> <p>・パズル、作図、などの学習活動は意欲的に取り組めた。初めての用語が多く、それらの定義や性質を印象付けるように動作化を用いた。楽しい活動が多いが、確実に定着することが難しい。定着させた児童は、用語の意味や性質を自ら見いだしていた。一人では見いだせなくても、ペア学習や、全体学習で満足感を味わえるようにしていきたい。</p>	

〈資料3〉

授業構想メモ

2年 教科：算数 単元名：形をしらべよう（3/9） 日時：10月 6日（木） 2校時

ねらい 三角形や四角形の定義を根拠として弁別の理由を説明することができる。	
必要な既習事項 ・辺や頂点に注目しての形の仲間分け ・三角形と四角形の定義	
めあて（学習課題） 三角形や四角形になるわけを考えよう。	
主な児童の活動	指導の留意点
<p>1 既習事項の確認</p> <p>○『三角形』『四角形』の定義を読み、前時の学習を振り返り、確認する。</p> <p>2 めあての理解</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 三角形や四角形になるわけを考えよう。 </div>	<p>○『三角形』『四角形』の定義と性質を掲示する。</p> <p>●三角形…黄色 四角形…青</p>
<p>3 課題</p> <p>○課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> 三角形や四角形を見つけよう </div>	<p>○課題を黒板に掲示する。</p>
<p>○ワークシートに三角形はオレンジ、四角形は青、どちらでもない形は鉛筆で印をつける。</p> <p>○ペア学習をする。 三角形、四角形、どちらでもない理由を考える。</p> <p>○発表の準備をする。</p> <p>○発表する。</p> <p>○代表の児童が動作化をする。 「直線」・「囲む」を動作化する。</p>	<p>○ワークシートを配布する。</p> <p>●前時からの色分けでワークシートに記入し、形分けができるようにする。</p> <p>○定義と性質を意識させて理由が書けるようにする。また、どちらにもあてはまらないものがあることに気付かせる。</p> <p>○児童の考えを板書する。</p> <p>○全員ですべての図形について判定する理由や根拠を明確にする。</p> <p>○キーワードとなる2つの用語を印象付ける。</p>
<p>4 ふりかえりをする。</p> <p>○格子点を結んで三角形や四角形を作図する。</p> <p>○正解したら、ノートに自分で考えた三角形や四角形を作図する。</p> <p>○本時のまとめをする。</p>	<p>○1学期に学習した直線の引き方を確認する。 点と点にもものさしを合わせて引くようにする。</p> <p>○次時への意欲をもたせる。</p> <p>○次時の予告をして学習意欲を高める。</p>
事後考察（よかった点、改善点） ・ペア学習は効果があった。色分けしていたことで、ペア学習の時、考えの相違が見た目で分かり意見交換がスムーズだった。ふりかえりの時間を確保できなかった。学習のめあてをより吟味し、学習活動を精選することが必要だった。ふりかえり活動を行うことで学習内容を定着させたい。	

〈資料4-①〉 高山小学校 授業基本デザイン【国語】

ねらい	<p>伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力を明確にする。表れてほしい児童の姿を具体化する。 ねらいを児童の立場から表現したもの→めあて</p>
必要な既習事項	<p>伸ばしたい資質能力に関わる児童生徒の実態を把握し既習事項や生活経験の状況を把握する。 児童自身が見通しをもって取り組める土台として大事なことを把握する。</p>
時間	授業の過程・内容
5 分 位	<p style="text-align: center;">めあて（課題把握）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">○本時の課題を板書したり、提示したりして明確に示す。</div> <p>①前時の学習を振り返る。課題を設定する。 ○前時までの児童の実態（学習の到達状況）を踏まえて、課題を設定する。 ②本時の見通しをもつ。活動内容を把握する。 ○本時の単元の中での位置付けを確認するとともに、本時の見通しがもてるよう、前時の学習内容と関連付けながら、学習の手順を説明する。</p>
3 0 分 位	<p style="text-align: center;">学び合い（課題追究）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">○本時の課題を解決できるよう、中心となる学習活動を設定したり、学習形態を工夫したりする。 ○児童の思考を深める発問をする。</div> <p>④個人で追究する。 ○個別に思考する時間を保障する。自分の意見や考えをもった上でグループでの交流に参加できるようにする。 ○必要に応じて教科書やノート、ワークシートなどを振り返り、既習の学習を生かして考えさせたり活動させたりする。 ⑤グループで交流する。 ○児童の思考力・判断力・表現等を深めたり広げたりするためのグループやペアなどによる少人数での学び合いを行う。 ⑥全体で交流する。 ○グループでの活動を受けて、クラス全体で学びの共有をさせるとともに、再度発問を行い、学びを深めさせ、まとめる。</p>
1 0 分 位	<p style="text-align: center;">ふりかえり（まとめ）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">○本時の学習を通して学んだことや考えたことなどを、書いてまとめさせる。</div> <p>⑦本時の学習を振り返り、文章でまとめる。 ○課題を解決した児童の姿を具体的に示してよさを認め、次時への意欲を高める。 ⑧次時の学習について見通しをもつ。</p>

〈資料4-②〉 高山小学校 授業基本デザイン【社会】

ねらい 伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力を明確にする。表れてほしい児童の姿を具体化する。 ねらいを児童の立場から表現したもの→めあて	
必要な既習事項 伸ばしたい資質能力に関わる児童生徒の実態を把握し既習事項や生活経験の状況を把握する。 児童自身が見通しをもって取り組める土台として大事なことを把握する。	
時間	授業の過程・内容
5分位	<p style="text-align: center;">めあて（課題把握）</p> <p>○本時の課題を板書したり、提示したりして明確に示す。</p> <p>（教師があらかじめ課題を設定しておく課題設定の手順）</p> <p>①単元の目標を確認する ②目標に対して、表れてほしい児童の姿を思い浮かべる ③表れてほしい児童の姿が出るような課題の型を選択する。</p>
30分位	<p style="text-align: center;">学び合い（課題追究）</p> <p>○本時の課題を解決できるよう、中心となる学習活動を設定したり、学習形態を工夫したりする。 ○児童の思考を深める発問をする。</p> <p>④追究の見通しをもたせる。 ⑤必要な情報を集めさせる。 ⑥必要な情報を読み取らせる。 ⑦集めた情報をまとめさせる。</p>
10分位	<p style="text-align: center;">ふりかえり（まとめ）</p> <p>○本時の学習を通して学んだことや考えたことなどを、書いてまとめさせる。</p> <p>⑧集めた情報をもとに考えさせる。 ⑨他者の考えと比較し、見直させる。 ⑩自分の言葉でまとめさせる。</p>

〈資料4-③〉高山小学校 授業基本デザイン【算数】

ねらい	<p>伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力を明確にする。現れてほしい児童の姿を具体化する。 ねらいを児童の立場から表現したもの→めあて</p>
必要な既習事項	<p>伸ばしたい資質能力に関わる児童生徒の実態を把握し既習事項や生活経験の状況を把握する。 児童自身が見通しをもって取り組める土台として大事なことを把握する。</p>
時間	授業の過程・内容
5分位	<p style="text-align: center;">めあて（課題把握）</p> <p>①既習事項の確認 ○前時までの学習内容と比較して、本時の学習する価値を明らかにする ○追究の見通し、解決の見通しをもつことができるための知識・技能・考え方</p> <p>②めあてをつくる（毎時間黒板に提示しましょう） ○学ぶ必然性や必要感をもてるめあて ○まとめの場面での児童の姿を予想し、どのような力を付けるかの視点から決定（整合性を） ○思考を促すキーワードを入れる等の工夫</p> <p>③問題を提示する</p>
30分位	<p style="text-align: center;">学び合い（課題追究）</p> <p>※既習の知識・技能を活用することで課題解決ができることを意識させる。</p> <p>④課題を追究する（個別） 一人一人の問題の解き方を考え、解く。</p> <p>⑤協働し課題を追究する（考えを発表し、比較・検討する） 小集団、全体など 学級の実態や学習内容に対する児童の理解の様子で学習形態を決定する。 解き方がわかる児童は、友達にわかるように説明する。 説明のよさ 解き方の筋道や解き方の根拠を明確にすることができる。 自分の考えの弱いところに気付ける。 分からないところがある児童は、どこが分からないか友達に聞いて解決する。 小集団学習→一斉学習での発表(解き方を発表し、比較検討する。</p>
活用問題に10分確保する	<p style="text-align: center;">ふりかえり（まとめ）</p> <p>⑥学習のまとめ 言葉による「まとめ」はシンプルに(児童の言葉で)「めあて」との整合</p> <p>⑦活用問題に取り組む(自力解決)</p> <p>○本時で学習した知識・技能を活用して課題解決に取り組む。 ○児童の理解度を考慮した課題解決の工夫をする。(理解度に応じた問題など)</p> <p>(例) 活用問題①は全員、②は理解度別に選択させ取り組ませる。</p> <p>活用問題① 教科書の例題や、数値やものを少し変えた問題を出題 (教師が○付けして全員の理解度を評価し、個別指導に生かす)</p> <p>活用問題② 理解度が低い児童には同様の問題を出題 理解度が高い児童には発展的な問題を出題</p> <p>○「活用する力を伸ばす評価資料集」の問題を活用したり、参考にしたりする。 ○数量や図形の「豊かな感覚」の力を付けるため、日常生活と結びついた問題や、文章で解答する問題などを取り入れる。</p>

〈資料4-④〉 高山小学校 授業基本デザイン【理科】

ねらい	伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力を明確にする。現れてほしい児童の姿を具体化する。 ねらいを児童の立場から表現したもの→めあて
必要な既習事項	伸ばしたい資質能力に関わる児童生徒の実態を把握し既習事項や生活経験の状況を把握する。 児童自身が見通しをもって取り組める土台として大事なことを把握する。
時間	授業の過程・内容
5 分 位	<p style="text-align: center;">めあて（課題把握）</p> <p>①自然事象へ働きかけ「問題」意識をもつ。 ○前時までの既習事項を確認し、児童の主体的な問題解決になるよう、児童の気づきや疑問から問題を作る。 ○問題を引き出すのに適した写真、実物、現象、過去の経験等を提示する。 ○結論で書かせたいことが答えの文になるように問題解決の問題を疑問文の形で示す。</p> <p>②児童の「問題」意識からめあてを設定する。 ○児童のつぶやきをつながげながら、結論で言わせたいことと対応する課題を児童とともに作る。</p>
3 0 分 位	<p style="text-align: center;">学び合い（課題追究）</p> <p>③「問題」に対する予想をする。 ○既習内容や生活経験などを根拠に予想をさせる。 ○既習の知識・技能を活用することで課題解決ができることを意識させる。</p> <p>④観察・実験の計画を立てる。 ○予想と観察・実験の方法と結果をセットで考えさせる。 「こんな（観察・実験）をすれば、（結果）になるだろう」 ○問題解決の見通しのある観察・実験を計画させる。（制御すべき条件等の確認）</p> <p>⑤観察・実験を行い、予想を確かめる。 ○考察しやすくするために結果を表やグラフにまとめさせる。 ○各学年で育てたい問題解決能力（3年「比較する力」4年「関係づける力」5年「条件を制御する力」6年「推論する力」）を伸ばすことを意識したまとめ方の工夫をする。</p> <p>⑥結果を基に考察を行い、結論を導く。 ○予想と結果を比較して考察させる。 ○一人一人の児童が考える（考察）→班やクラスで交流→全体のものにして練り上げる。 ○事前に教師が児童の考察を予想しておき、意図的指名によって考察を交流させる。 ○言葉による「まとめ」はシンプルに（児童の言葉で）「めあて」に対する答えになるように。 ○結果が異なるときは再実験を行い、全体でデータを共有した事実を基に再度考察させる。</p>
1 0 分 位	<p style="text-align: center;">ふりかえり（まとめ）</p> <p>⑦<u>自然や生活にあてはめる。</u> ○見いだした結論を自然や日常生活にあてはめて、身に付けた知識が活用できる状態になっているか確認する。（身に付けた知識で、自然や日常生活の事物・事象が説明できる。） ○日常生活へ活用させる場面を作ることで学びの有用感を高める。</p>



あかるく
かしこく
たくましく

たかやま 学びと生活のやくそく

高山村保育所・高山幼稚園・高山小学校・高山中学校

		保育所・幼稚園	小学校			中学校
			低学年	中学年	高学年	
学び まなび	授業中	話す	聞こえるように最後まではっきり話そう (～です。～ます。)	考えを整理してわかりやすく話そう 「～だと思います。なぜなら～だからです。」	根拠を明確にして意図が伝わるように話そう 「～から考えると・・・つまり～」	
		聞く	相手の顔を見ながら、最後まで話を聞こう	自分の考えと比べながら聞こう わからないときは聞き返そう	話し手の意図をつかみながら聞こう 大事なことはメモしよう	
	時間	お片付けや給食の始まりや終わりの時間を意識しよう	学習用具を準備し、チャイムで授業が始められるようにしよう			チャイム着席を徹底しよう
	学習の準備	自分や友だちみんなの物を大切にしよう 遊びに必要な物を自分でそろえたり、作ったりしよう	連絡帳に翌日の連絡・持ち物をきちんと書き、連絡帳を見ながら学習の用意をしよう			学習に必要なもののみ持ってこよう
	読書	見たり、聴いたり、読んだりしよう お家の人と一緒に絵本やお話しに親しもう	進んでたくさん本を読もう	自分に合った本をたくさん読もう		いろいろな分野の本を読もう(朝読書)
	家庭学習		30分以上 家の人と一緒に宿題などをしよう	40分以上 自分の力で宿題などに取り組もう	60分以上 復習を中心にした学習をしよう	1年：60分以上 2年：90分以上 3年：120分以上 目標を決め、計画を立てて学習しよう
生活 せいかつ	健康	うがい・手洗い・歯磨きをしよう 早寝早起きをしよう 朝ご飯を食べよう	一日3回歯をみがこう 早寝早起き朝ご飯をこころがけよう 進んで体を動かそう			生活リズムを整えよう(早寝・早起き・朝ご飯) 早期受診、早期治療を心がけよう
	家庭	自分でできるお手伝いをしよう 幼稚園であったことを話そう	家の手伝いをしよう 学校であったことを話そう テレビ・ゲーム・ネットについて約束やきまりを守ろう			ゲーム、ネットの時間や約束を守ろう 家族の一員としての役割を果たそう
	自分のこと	自分のことは自分でしよう	目標を決め、あきらめずに最後までやろう			自分の目標を実現させるために、行動しよう 徒歩や自転車で自力通学しよう
	身の回り	自分で使った物はもとにもどそう	ロッカーや机をきれいにしよう 使った物は元の場所に戻して片づけよう			気持ちよく生活できる環境をつくろう
	身だしなみ	汚れたら着替えよう	清潔で、時と場にふさわしい服装にしよう 持ち物すべてに名前を書こう			制服や体育着は正しく着用しよう 中学生らしい自然な髪型にしよう
	あいさつ 言葉づかい	大きな声であいさつや返事をしよう 「ありがとう」「ごめんなさい」をきちんと言おう	時と場に応じた言葉をつかおう 目上の人には丁寧な言葉をつかおう		時と場に応じた言葉をつかおう	
	交通安全	安全に気を付けて歩こう	交通ルールとマナーを守って行動しよう 自転車に乗るときは安全に注意して乗ろう (ヘルメットをかぶる 2列に並ばない 道路に飛び出さない)			
	防犯	・「いかのおすし」(知らない人について行かない・知らない人の車に乗らない・大声で叫ぶ・すぐ逃げる・知らせる) ・夕方、暗くなったら一人では歩かないようにしよう ・遊びに行く時は帰る時刻や行き先を家の人に伝えよう				外出する時は帰る時刻や行き先を家の人に伝えよう 生徒どうしてゲームセンターなどへ行かないようにしよう

毎月10日、20日、30日は「ちょっぴりノーテレビデー」です。テレビやゲームから離れて、家の人とたくさんお話ししましょう。

平成25年10月1日 高山村一貫教育推進委員会

〈資料6〉

高山小よい子の1日

～生活・学習の約束～

時間	児童の動き(指導内容)	
登校 ～8:10	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を欠席する場合には、家の人に連絡してもらいましょう。 ・特別な理由がない限り、歩いて登校しましょう。 ・地域や安全守り隊の人たちに、大きな声で挨拶をしましょう。 ・集合場所から校門(校舎前)まで、しっかりと集団登校をしましょう。 	
朝  ランドセルには、必要以外の飾りは、付けないようにしましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・下履は自分の下足入れの下の段に入れてから、上履きに履き替えましょう。(上履きは、かかとを踏まないように、きちんと履きましょう。) ・教室に入ったら、かばんの中の勉強道具を机の中に入れ、宿題・提出物を先生の机の上にそろえて、出しましょう。(かごを用意して置くと、提出しやすくなります。) ・活動を始める前に、トイレを済ませましょう。トイレ後は、手を洗い、清潔なハンカチで拭きましょう。 ・外へ遊びに行く場合は、体育帽子をかぶりましょう。遊んだ後は、手洗い・うがいをしましょう。 ・校舎内で、かくれんぼ・鬼ごっこ等の遊びをしてはいけません。 	
朝読書 8:15 ～8:25	<ul style="list-style-type: none"> ・8時10分には教室に入り、朝読書の準備を始めましょう。 ・読書は、自分の席で、静かに読みましょう。 	
朝の会 8:25 ～8:35	<ul style="list-style-type: none"> ・日直が司会・進行をしましょう。 ・健康観察は、担任の先生か保健係が行い、5分休みまでに職員室の黒板へ記入しましょう。 	
授業  	移動	<ul style="list-style-type: none"> ・特別教室、体育館へ移動する場合には、静かに移動しましょう。
	準備	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、ノート、下じき、筆箱を机の上に準備しましょう。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・筆箱 <ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆(キャップ付)、消しゴム、定規、赤ペン(赤鉛筆) 名前ペン ・中身は、必要以上のものは、入れないようにしましょう。 ・キーホルダー等の飾りは、付けないようにしましょう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・チャイムで授業が始められるようにしましょう。
	挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・日直が号令をかけましょう。 (例) 「姿勢をよくして下さい」 「はい」 「これから〇時間目の授業(勉強)を始めます」 「お願いします」 「注目」「礼」
	挙手	<ul style="list-style-type: none"> ・手を真っ直ぐ伸ばして、挙げましょう。(「はい」は1回です)
	発表	<ol style="list-style-type: none"> ①指名されたら返事をする。 ②起立し、いすをしまう。 ③友達を中心に向かって大きな声で発表する。 ④発表内容をみんなに確認する。「～です。」「いいですか。」 ⑤着席する。
	音読	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を両手で持って読む。

時 間	児童の動き(指導内容)	
5分休み	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ、水飲みにいきましょう。 ・次の授業の準備をしましょう。 ・用事がない場合は、席に着き教科書を読んでいきましょう。 	
業間活動 10:15 ~10:30	集 会	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館で集会がある場合には、廊下に並んで静かに集合しましょう。 ・集会で話を聞く時は、しっかりと体育座りをしましょう。 ・校庭で活動する場合には、体育帽子をかぶりましょう。 
業間休み 昼 休 み	<ul style="list-style-type: none"> ・次の授業の準備をしてから、休み時間にしましょう。 ・外で遊ぶ場合には、体育帽子をかぶりましょう。 ・授業開始5分前には遊びをやめ、使った道具を片づけて教室に戻りましょう。 ・手洗い、うがい、トイレを済ませましょう。 	
給 食 12:25 ~13:15 	準 備	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ、手洗い、うがい消毒を済ませ、コップ・歯ブラシの準備をしましょう。 ・全員、マスクを着用しましょう。 ・1、2年生は、ワゴンは、担任の先生と一緒に運びましょう。 ・台ふき係は、給食台・机をふきましょう。 ・当番以外の子もマスクをして手伝います。
	挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・日直が前に出て、号令をかけましょう。
	食 事	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーを守って、残さずに食べましょう。 
	歯 磨 き	<ul style="list-style-type: none"> ・「歯磨きタイム」の音楽を聞きながら、自分の席で丁寧に歯を磨きましょう。(歯磨き粉は使いません。)
	片 づ け	<ul style="list-style-type: none"> ・給食当番が食器を片づけ、台ふき係が台・机をふいて、全員がそろってから、ごちそうさまの挨拶をしましょう。
そうじ 13:15 ~13:30	<ul style="list-style-type: none"> ・三角巾、てぬぐい等をかぶり、そうじをしましょう。 ・そうじ終了後は、担当の先生に確認してもらい、反省会をしましょう。(例) 「これからそうじの反省会を始めます。」 「そうじを頑張った人は、手を挙げて下さい。」 「明日もそうじをがんばりましょう。」 「これでそうじの反省会を終わりにします。」 「気を付け」「礼」 ・そうじが早く終わっても、そうじの時間が終わるまでは、遊びに行かないようにしましょう。 	
帰りの会	<ul style="list-style-type: none"> ・ランドセル、配り物等の帰りの準備をしましょう。(教科書、ノートは毎日、持ち帰りましょう。) ・明日の予定、連絡、持ち物を確認しましょう。(連絡帳) ・週末は、月曜セット(上履き、歯ブラシ、コップ、マスク、三角巾等)を持ち帰りましょう。 ・給食当番は、エプロンも持ち帰りましょう。 	
その他 	<ul style="list-style-type: none"> ・目上の人や先生には、正しい言葉遣いをしましょう。また、友達の名前は、「くん」「さん」を付けて呼びましょう。 ・学校には、必要以外のもの(カード類、漫画、シール等)を持ってきてはいけません。 ・体調が悪く体力づくり、体育の授業を見学する場合は、担任の先生に理由を話しましょう。 ・特別教室や自分のクラス以外の教室には、特別な用事がある場合以外は入らないようにしましょう。 ・放課後は、特別な用事がない場合には、早く下校しましょう。(下校時間 3~10月16:20 11~2月16:00) ・ベランダには、危険なため出てはいけません。 	